

## 平成 22 年度 学校経営計画に対する中間評価報告

石川県立羽咋工業高等学校				
重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
1. 公開授業や校内外の研修を通じて指導力・技術力のアップに努め、分かる授業を展開し、生徒の基礎学力の定着と学力向上をめざす。	① 研究授業の事前教科研修会や研究協議会、公開授業を充実させ、各教科と学科を核にした授業改善に取り組む。	各教科と学科で授業改善についての取組を行った A 各学期に3回以上取り組んだ B 各学期に2回取り組んだ C 各学期に1回取り組んだ D 全く取り組む事ができなかった	教職員対象に 7月アンケート A：19% B：31% C：39% D：11% 評価：C・Dをあわせて50%	教職員対象のアンケート結果は、C・Dをあわせて50%（昨年度53%）と決して良くはなかったが、生徒による授業評価結果は改善している。 5月配布の「研究授業の諸観点」を活用した「授業改善」を各教科主任および学科主任・コース長に働きかけ、要請訪問や校内研究授業の実施に合わせて、学校全体で取り組む。
	② 授業における理解度・達成度の確認を行い、課題やレポート等とおして基礎学力の向上を図るとともに学習習慣を身に付ける。	課題・レポートなど授業外での学習活動について A 十分取り組むことができた B 十分とはいえないが取り組むことができた C 少しは取り組むことができた D 全く取り組むことができなかった	生徒対象に 7月アンケート A：34% B：48% C：16% D：2% 評価：C・Dをあわせて18%	生徒対象のアンケート結果は、C・Dをあわせて18%であり、判断基準をクリアすることができた。しかし、家庭学習時間についての改善があまり進んでおらず、課題・レポート等の出題量と方法についての工夫が必要である。 課題・レポートについて、資格取得に向けた学習を授業と関連付けるなどして興味・関心を高めるとともに、家庭学習課題・レポートの出題回数を増加させ、意欲的に取り組める様に工夫し、学習習慣を身に付けさせる取組を行っていききたい。
	③ 定期考査1週間前より、部活動での学習会や、個別面談・個別指導等を増加させ、学習意欲の向上を図る。	部学習会や個別面談、個別指導等を行った部が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	各部顧問対象に 7月アンケート  評価D：70%未満	26ある運動部・文化部の顧問の調査では実施率は62%（運動部86%）であり、運動部は14部中12部、文化部は12部中4部の実施であった。毎日活動する部ほど、手厚く学習指導が行われている。 本校は全員の部活動加入が原則である。生徒への学習指導で、クラス担任・教科担任・部活動顧問の3方向から指導が加わることの効果は大きい。今後、さらに粘り強く文化部顧問へ協力を働きかけ、生徒に手厚く学習指導をしていきたい。
	④ 調べ学習や読書習慣を身に付けさせ、図書室の利用を促す。	2学期末での図書室の延べ利用者数が A 3,400人以上（1学期末1,400人以上） B 3,300人～3,399人（1学期末1,300人～） C 3,200人～3,299人（1学期末1,200人～） D 3,200人未満（1学期末1,200人未満）	1学期末での延べ利用者数 1,581人 評価：A（1学期末）	1学期末の目標数を上回ることができた。3年生が本格的に進路に向けての取組を始め、6月・7月の放課後利用者数が増加した。また、教員の図書室利用に向けての取組も影響している。今後は、利用の定着から読書へと関心を誘い、貸出冊数の伸びにも取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価	活字離れを解消し、読書量を増やす目標に対しての評価を図書室の利用者数で判断するのは短絡的ではないか。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	読書習慣を身に付けさせるためにまずは図書室を利用するところから始めたが今後は貸出冊数等の調査結果も分析資料に加えて評価を行う。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）	
2. 資格取得を奨励し、高度な資格への挑戦意欲を高めるとともに、補習体制を確立し合格者の増加をめざす。	① 各科・コースで資格について課外補習等を充実させる。	放課後や休日の補習について A 十分取り組むことができた B 十分とはいえないが取り組むことができた C 少しは取り組むことができた D 全く取り組むことができなかった	教職員対象に 7月アンケート A：44% B：42% C：11% D：0% 評価：C・Dをあわせて 11%	教職員対象のアンケート結果は、A・Bあわせて86%で、高い評価結果であった。（無回答3%）後期に向けA・Bの評価を増加させるだけでなく、生徒の資格取得に直結するように補習内容を一層工夫・充実させていく必要がある。	
	② 希望進路の実現に対する資格取得の説明機会を増やすとともに、課外補習を充実させ資格試験の合格者数を増加させる。	年度末での資格試験延べ合格者数が学校全体で A 1,000人以上 B 800人以上 1,000人未満 C 600人以上 800人未満 D 600人未満			
	③ 高度な資格の内容紹介や受験指導を行うとともに、ジュニアマイスターの点数区分を明示し、多くの資格に挑戦する意識付けを行う	全校のジュニアマイスター認定者数が A 30人以上 B 25人～29人 C 20人～24人 D 19人以下			
学校関係者評価委員会の評価		取得資格の選択をどのように指導しているのか。何でも取得させるのではなく社会で活用度の高い資格を説明して取得させていくことが大切ではないか。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		様々な職種の企業や卒業生からそれぞれの職種での有効な資格について意見を聴取し、その情報を生徒へ伝えていく。			
重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）	
3. 部活動への加入を推奨し、人間性に富み心身ともに健全で逞しい人づくりをめざす。	① 生徒全員が体力アップの重要性を認識し、個人、クラス、部活動で目標を持って体力向上に努める。	体力アップを達成する生徒が A 70%以上 B 60%以上 70%未満 C 50%以上 60%未満 D 50%未満			
	② 本校の運動部は、能登地区のリーダー的存在であることを自覚させ、各部において県高校総体・新人大会でベスト8以上を目指す。	ベスト8以上の運動部が A 50%以上（9部以上） B 40%以上 50%未満（7～8部） C 30%以上 40%未満（6部） D 30%未満（5部）	7部がベスト8以上に進出した  評価：B（県総体）	総体の結果は、剣道、柔道男、弓道女、ラグビー、ソフトテニス男、バレーボール、ヨット男・女の8つの部がベスト8以上に入賞した。新人戦に向けて、各部は更に上位を目指し努力しており、今後が期待できる。来年の総体では9部以上がベスト8以上に進出し、高体連敢闘賞（石川県内で学年4クラス以下の学校規模の中で、最も総体の成績が良かった学校に送られる。）を獲得するため、さらに精進していきたい。	
	③ 文化部において、部の重複加入を奨励し、学校祭以外にも校内外での発表・展示・公開の機会をさらに増加させる。	学校祭以外で発表、展示、公開練習等の機会を持った回数が A 3回以上 B 2回 C 1回 D 0回	各文化部顧問対象に 7月アンケート A：2部 B：4部 C：6部 D：0部 評価：C・Dをあわせて 50%	どの部もより工夫して活動の発表の機会を増やしている。現時点でこれだけの活動数は昨年よりも多く、2回以上実施した部は50%で、すでに基準は達成している。9月以降、羽咋市福祉祭や各種イベント、校内での作品展示などもさらに実施する予定である。この取組をすることにより、生徒達の日々の取組がさらに意欲的になってきたと感じられる。	
	④ 生徒会が中心となり、行事への参画意識を高め、生徒からの意見を十分取り入れた行事にする。	生徒会行事に満足していますか A たいへん満足した B おおむね満足した C あまり満足できなかった D まったく満足できなかった	生徒対象に7月アンケート A：28% B：61% C：9% D：2% 評価：C・Dをあわせて 11%	1学期の生徒会行事は、壮行式、表彰伝達式、陸上競技大会などで、A・Bを合わせると89%、C・Dを合わせると11%であり、生徒は概ね満足している。2学期はさらに多くの生徒会行事があり、最大のイベントである文化祭もひかえている。生徒の意見を十分に取り入れ、生徒会執行部を中心に充実したものにしていきたい。	
	⑤ 精神的な悩みを持つ生徒に対して、学年、課が連携し組織的に支援する。	精神的な悩みを持つ生徒に対する職員の支援が A よく行われている B おおむね行われている C あまり行われていない D まったく行われていない	教職員対象に 7月アンケート A：33% B：58% C：8% D：0% 評価：C・D合わせて8%	C・D合わせて8%であり、判断基準をクリアすることができた。不登校ぎみの生徒は数名いるが、担任をはじめ、関係する職員が家庭訪問や面談、さらに他の職員へ情報を提供した。今後、これらの生徒を見守りつつ、他の悩みを持つ生徒にも対応していかなくてはならない。そのためには、さらなる情報交換や学年や課との組織的連携が必要である。	
学校関係者評価委員会の評価		悩みを抱える生徒で自ら打ち明ける生徒には対応しやすいが、打ち明けられない生徒に対してはどう取り組んでいるのか。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		1年生全員に実施している心理テスト結果から生徒一人ひとりの分析を十分に行うことで悩みを内面に抱え込みそうな生徒を事前に把握するとともに、教員間の情報交換もさらに密にしながらか連携を図る。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）	
4. 企業が求める人材の育成に努めると共に、早期からの求人開拓で求人数の増加を図り、進路講演会や綿密な個人面談・面接指導等の徹底により、希望の進路実現をめざす。	① 進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行うことにより、適切な進路選択を促進させる。	進路説明会・LHなどによる説明や配布した進路情報により A 十分に進路意識が高まった B 少し進路意識が高まった C あまり進路意識につながらなかった D ほとんどつながらなかった	生徒対象に 7月アンケート A：31% B：57% C：10% D：2% 評価：C・D合わせて12%	C・D合わせて12%であり、判断基準をクリアしている。全学年とも、就職難だからこそ、進路についての意識は高く持っている。昨年度、低かった1年生の意識も高くなっている。今の社会情勢とホーム担任による指導や学校新聞などによる進路の情報などにより、早い時期から進路を意識する様になってきている。後期に向けて、1、2年生に対してさらに進路資料や説明会の充実を図り、より多くの生徒の意識を高めていきたい。 (学年別のC・D合計：3年6%、2年14%、1年15%)	
	② 進路希望の達成のために指導の充実を図る。 ・基礎学力の定着を図り、試験対策を十分に行う。 ・外部講師による講演や面接指導、担任による個別面談を充実させる。	学力テストや面接指導等により A 実力がついた B まま実力がついた C あまり実力がつかなかった D まったく実力がつかなかった			
		就職試験の第1回目試験での内定率が A 85%以上 B 75%以上85%未満 C 65%以上75%未満 D 65%未満			
学校関係者評価委員会の評価	就職の模擬面接指導において企業の方々から協力を得ていることは良いことである。また、1、2年生の時期から進路意識を高めていってもらいたい。就職者に対する指導は充実しているが、進学希望者に対する取組はどうなっているのか。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	「先輩と語る会」や「学び学習」等、生徒が主体的に考えていく態度を育む機会を設けられないか検討する。進学希望者に対する面談、補習をさらに充実させ、生徒の興味・関心に適応し、長所が発揮できる進学先の分析・検討を組織的に行う。				
重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）	
5. 様々な機会を捉え、環境問題への理解を深めるとともに、全職員・生徒で省エネ活動に取り組み、環境保全への意識を高める。	① 環境保全についてはこれまでの取組を萎えさせることなく職員・生徒が理解を一層深め、学校全体で取り組みを継続させていく。	環境保全に対し心がけているか A 心がけている B やや心がけている C あまり心がけていない D 心がけていない	生徒対象に 7月アンケート A：37% B：51% C：11% D：2% 評価：C・Dあわせて13%	昨年度後期から継続して、ISO委員が昼食時に節電の呼びかけを行った。昼食時の消灯は徹底されてきたが、部活動や授業の合間の節電は充分とは言えない。ISO委員としては昼食時以外も見回り等で啓発活動を継続していく。また、ゴミの分別リサイクルもISO委員が一般生徒に呼びかける。年2回ISOだよりを発行し、本校の省エネ効果を数値データで示し、生徒会が中心に行っている一日一善運動と協力して進めていく。	
学校関係者評価委員会の評価	環境保全に対する取組については、就職への意識付の面から各企業で取り組んでいる実践例を参考にして新たな取り組みをしたらどうか。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	いろんな企業のISOの取組の中から、本校でも取組むことが可能であり、効果が期待できるものを今後検討する。				

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
6 地域企業、近隣の小・中学校、地域住民との連携を深め、地域への奉仕活動やインターンシップ等を通じて、社会の一員としての意識を高める。	① 地域社会や企業と連携し、インターンシップ等のキャリア教育を推進する。	仕事をすることの意義について A 十分理解できた B まあまあ理解できた C あまり理解できなかった D まったく理解できなかった		
	② 地域に貢献する大切さや必要性を認識するために、ボランティア活動を推奨する。	ボランティア活動に参加した回数が A 3回以上 B 2回 C 1回 D 0回	生徒対象に 7月アンケート A: 13% B: 21% C: 32% D: 35% 評価: C・Dあわせて 67%	A・B合わせて34%であり、目標の50%はまだ達成されていない。今後、2学期にボランティア海岸清掃なども予定している。さらに日々の「1日1善」運動で、各クラス・部で校外の清掃活動等をおこなうため、ボランティア活動に参加する生徒の数は今後増えると予想される。
	③ 社会生活を営む上で、マナーの必要性を説き、認識させる指導により、交通ルールを遵守する生徒を育てる。	自分自身の自転車の乗車マナーについて A ルールを守り安全に運転している B ルールをある程度守り運転している C ルールをあまり守らず運転している D ルールを守らず運転している	生徒対象に 7月アンケート A: 35% B: 56% C: 7% D: 2% 評価: C・D合わせて 9%	C・D合わせて9%であり、その内訳は2年生の割合が高い。交通ルールやマナーに関する意識を高く持てるよう、全体集会、学年集会を通して注意を促し、学年団と課との組織的な連携を図る。
	④ ホームページの更新を定期的に行い学校の様子や部活動の成績を発信し、情報公開に努める。	各担当・各部署でホームページを更新した回数が A 4回以上 B 3回 C 2回 D 1回以下	担当者に調査 評価 A: 4.2% B: 0.0% C: 4.3% D: 91.5% 評価: D 91.5%	ホームページ上に掲載しているのは部活動14部 教科(コース)5科、校務分掌5課である。7月までの更新回数は総務課5回、ラグビー部2回、教育相談課、書道部、建設造形デザインコース各1回で延べ更新回数は9回であった。7月段階でDが91.5%もあり、更新回数はきわめて少なかった。後半に向けて各部、各課、各科に対して新しい情報をアップロードするように働きかけていきたい。
	⑤ 本校教育活動について、学校新聞や学校公開の案内などにより地域からの理解促進に努める。	広報等での地域への情報提供を A 5回以上実施した B 4回実施した C 3回実施した D 2回以下	スポーツ講演会（1回）  評価: D	昨年度の前期は情報提供が1回もできなかったが、今年度は1回行った。後期に行われる学校祭、学校行事、学校公開、課題研究発表会は参加型行事多いため、地域の方々に少しでも本校の活動内容を理解していただけるように今後、案内・情報提供の方法を工夫していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	地域との連携をさらに深めていってほしい。 高校周辺での生徒の自転車マナーは以前より良くなっており、指導の成果が感じられる。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	情報提供の範囲を今後はさらに広くしていく。 交通マナーの遵守については指導を継続することが大切なので、少し現状が良くなったからといって指導を中断せずにコツコツと指導していく。			